

【全体を通して】

1. 基礎的・基本的な学力

保護者アンケート(2)「子どもは、基礎的・基本的な学力を身につけている」は「よく出来ている」「大体出来ている」を合わせると、昨年度 80%から77%・児童アンケート(2)「よむこと・かくこと・けいさんができる」は89%から85%・教職員アンケート(2)「児童は、基礎的・基本的な知識・技能を習得している」は100%から88%と三者とも少し下がっている。

【考察】

学校教育の根幹をなす部分であるので 100%を目指したい。基本的・基礎的な学力のとらえ方が人によって差があることも考えられる。

【今後の取組の方向】

さらなる授業改善、個別の意識をもったベーススタディの時間の活用、家庭と連携しての宿題の取組を粘り強く続けていいきたい。また、基礎的・基礎的な学力のとらえ方が具体的ではないため、判断しにくいところもあったと感じる。今後は、基礎的・基礎的な学力についての具体的な内容を検討したい。

2. タブレットの効果

保護者アンケート(1)「家庭学習におけるノートやドリルの使い方が身についている」は「よく出来ている」「大体出来ている」を合わせると、昨年度 86%から72%と大きく下がっている。

保護者アンケート(5)「読書好きの子どもに育ってきている」は「よく出来ている」「大体出来ている」を合わせると、昨年度45%から 42%・同じく児童アンケート「ほんをよむことがすきだ」は83%から69%・教職員アンケート「児童は読書に親しみ、100 冊を目指し取り組んでいる」は46%から40%と大きく下がっている。

教職員アンケート(3)「児童は、自分の考えを広げたり深めたりすることができている」は「よく出来ている」「大体出来ている」を合わせると、昨年度60%から88%に大幅に上がっている。

【考察】

学習では、タブレットを用いることによって(校内の研究で取り組んだ)効果的に自分の考えを表現したり、友達と意見や考えを交流しやすくなったりしたので、自分の考えを広げたり深めたりすることができたのではないか。また、その反面ノートの使用率が減ったことにより、ノートの使い方が身についている割合が下がったのではないか。読書に関しては、スマホやタブレットの使用時間の増加により相対的に読書の機会が減った、また、高学年になると読書の時間を確保することが難しい現状が影響していると考えられる。

読書に関してのみを考えると、保護者は 42%、児童は 69%、教員は40%となっている。大人の見方と子どもが思っていることには乖離があることが分かる。

【今後の取組の方向】

スマホやタブレットの利用時間と読書に関する質問のクロス集計をとる方法の検討。朝読書の取組の改善・継続、授業での読書の時間の確保や、図書を用いた授業の構築。図書委員会などの児童からスタートする「図書に関する活動の活性化」を考える。また、長年続けて頂いている図書ボランティアさんの読み聞かせの継続のお願いをしたい。さらに、家庭と連携してスマホやタブレットの時間利用についての課題に取り組んでいきたい。

【全体を通して】

3. 家庭での様子との乖離

保護者アンケート(4)「子どもは、家庭学習に進んで取り組んでいる」は「大体出来ている」を合わせると62%・同じく児童アンケート(4)「まい日、しゅくだいができる」は88%・教職員アンケート(4)「児童は、家庭学習を主体的にやり遂げている」は87%。

保護者アンケート(15)「子どもは、美化活動や整理整頓・そうじを進んですることができる」は「大体出来ている」を合わせると40%・同じく児童アンケート(16)「じぶんからせいりせいとんやそうじにとりくんでいる」は88%・教職員アンケート(15)「児童は、美しい学校環境を維持するため、美化活動やそうじを進んですることができている」は100%。

【考察】

家庭学習、掃除や整理整頓どちらも、児童と教職員の割合は近いが、保護者との割合には大きな乖離がある。学校で出来ていることが家庭ではできていないことがうかがえる。当然、学校では宿題をやっているかやっていないかしか分からないので、進んで取り組んでいるか分からない。また、学校には掃除の時間があるので、学校での数値は高くなる。

【今後の取組の方向】

掃除や整理整頓、挨拶やありがとうのお礼など、学校で普段行っていることは学校外で出来てこそ身についていると言えます。しかし、校内で出来ているからと言って簡単に校外でできるということにはならない。だからこそ、学校と地域と家庭とが同じ方向を目指して、子どもを育んでいければと思う。例えば、朝の登校の時のPTAの方・見守り隊の方・教職員との挨拶、地域行事や学校行事での大人の方との関わりなどを通して、粘り強く育んでいきたい。

【学校運営協議会理事会評価】

・今後とも、子どもの小さな変化を見落とさず、細やかな声掛けや対応を続けてほしい。また、職員同士が情報を細やかに共有してほしい。

・PTAの方々は朝の見守りをよくやってくださっている。子どもは全体的によく挨拶をしている。心の中では、挨拶をしたいけど出来ない子もいると考えられるので、全員が全員挨拶をできなくてもよいのではないか。低学年のころに挨拶できなかった子が、大きくなって出来るようになった子もいる。気長に地域も学校も頑張っていきたい。

・旧千本など、スピードを出す車が多い。警察などには働きかけているが、事故も多い。子どもには自転車に乗るときにヘルメットをかぶるよう指導したい。また、飛び出しを見たこともある。地域と共に安全を大切にするように何度も言い続けていきたい。

・読書は大切であるので、今後とも学校での取組やボランティアさんの活動を頑張ってほしい。

・社会科や総合的な学習の時間に扱う、郷土に関する学習(城南祭等)を大切にして毎年続けてほしい。

・働き方改革の中で保護者と先生の繋がりが希薄になってきている。参観授業では、先生の人となりが分かるような動きのある授業ができないだろうか。限られた時間の中で保護者と教職員が一緒に活動をするような上鳥羽らしい取り組みができたら素敵ではないか。

・これからも子どもたちを褒めて育ててほしい。